

平成24年度 第3回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日 時 :平成24年8月21日(火) 17:00～19:30
- II. 場 所 :私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者 :萩原委員(skype)、川島委員、名取委員、吉岡アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

前回委員会からの積み残しである「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」について検討を行った。

(1) 学士力の解説について

1. 全体像について

- ・政治学の究極の目標は「市民」の育成であるという点は強調すべきである。
- ・能動的・参加型授業への転換を積極的に打ち出すべきである。
- ・大学のガバナンス側が読んで理解できるかという視点で検討しなければならない。
- ・「自己決定」の原理という表現が、誤読を招くことはないだろうか。「自己決定の原理」=自由、ということではないか。
- ・抽象的な「社会的現実」なのか抽象的な「基本概念」なのか、抽象的という文言が指し示す言葉を明確にすべきである。
- ・「学問の持つ政治性」は、特に政治学において留意せねばならない重要な点であり、その自覚を促すことが必要である。

2. 到達目標1について

- ・主に文言の微修正を行った。

3. 到達目標2について

- ・主に文言の微修正を行った。

4. 到達目標3について

- ・主に文言の微修正を行った。

5. 到達目標4について

- ・到達目標2, 3とコア・カリキュラムの科目が重複している部分があることに留意すべきである。
- ・到達目標3は経験的で、到達目標4は規範的な面を志向していると考えられる。
- ・コア・カリキュラムについては、それほど拘束的ではなくフレキシブルに捉えてよい。
- ・民主主義の仕組みではなく、その背景・思想を理解することが緊要である。

- ・民主主義に限定せず、あらゆる共同体・集合的決定を支える価値・思想を理解させることが、共生に結びついていく。
- ・制度的・非制度的というだけでなく、秩序形成が達成できていない部分も含めて捉えていかねばならない。すなわち、新しい可能性についても言及すべきではないか。

6. 到達目標 5

- ・政治学の目標は「市民の育成」である。
- ・個人としての「実践」を踏まえる必要がある。
- ・社会の一員として、自らの意識・行動が、政治社会に連動していることを認識させるべきである。
- ・ソーシャルラーニング的な要素を盛り込むべきではないか。
- ・手段を書き込むと、縛りが強くなってしまうような印象を与えてしまうのではないか。それをやらなければ達成できない、かのように捉えられる恐れがあることに留意すべきである。
- ・全体像で描かれている「共生」に、再度、言及すべきではないか。
- ・他者の多様な価値観を尊重するという点を明確にすべきである。

以上の議論を通じて、「政治学教育における学士力の考察」の全体像と5つの到達目標についての解説をまとめた。

2. 今後の検討スケジュールについて

(1) 今後の検討課題

- ・もう一度、学士力の考察を全体として検討する。
- ・教育改善モデルについて、モデルを具体化するために必要な図表、補足説明など追加する。概念図については次回委員会までに作成することになった。

(2) 次回の委員会

日時：平成24年9月25日（火） 17：00～19：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上